

団体・組織の概要 ※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	池島・福万寺カワセミ楽会		
代表者	堀江 洋子	担当者	中村 敬子
所在地	〒 5 7 9 - 8 0 6 4 TEL: 0 7 2 9 - 8 4 - 5 7 3 0 FAX: 同左 E-mail: hatta-k@ict.ne.jp		
設立の経緯 ／沿革	1998 年 7 月 1 日 設立 2003 年 東大阪市環境功労者賞 受賞		
団体の目的 ／事業概要	「恩智川治水緑地を人と自然のビオトープ公園に一」 原風景の保存・再生と、野生生物保護と、環境保全		
活動・事業実績 (企業の場合は環境に関する実績を記入)	1998 年 10 月 大阪府へ要望書と 9 1 7 0 名の署名提出以降、啓蒙活動の傍ら、行政への提言を続ける。		
ホームページ	http://www.geocities.jp/if_kawasemi/index.html		
設立年月	1 9 9 8 年 7 月 1 * 認証年月日 (法人団体のみ) 年 月 日		
資本金/基本財産 (企業・財団)	円	活動事業費 ／売上高 (H17)	0 円
組 織	スタッフ／職員数 1 0 名 (内 専従 名) ----- 個人会員 4 5 名 法人会員 名 その他会員 (賛助会員等) 名		

政策のテーマ

恩智川治水緑地を人と自然のビオトープ公園に

■ 政策の分野

- ・野生生物保護・温暖化対策・街づくり
- ・環境パートナーシップ等

■ 政策の手段

- ・組織、活動、調査
- ・環境学習の機会を提供

団体名：池島・福万寺カワセミ楽会

担当者名：中村 敬子

■ キーワード

① 政策の目的

恩智川治水緑地での内陸湿地の原風景の復元と、生息地が深刻なシギ・チドリ類、両生は虫類を中心とした内陸性の生物の保護。

② 背景および現状の問題点

大阪府で唯一の内陸湿地であり、古代よりシギ・チドリ等の渡り鳥の中継地であった豊かな自然環境は、開発が進む今もなお受け継がれ、野鳥を中心とした多くの絶滅危惧種の生息地になっています。昭和54年頃より40.2haもの広大な恩智川治水緑地の建設が始まり、緑地やグランド、遊歩道などが設置されつつあり、ますます野生生物の生息地が狭められています。

③ 政策の概要

建設中の恩智川治水緑地の整備に対し、ヨシ原等の湿地の復元を取り入れ、自然環境に配慮したものとする。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

市民ネットワークの結成＋協力環境団体＋環境団体ネットワーク、近隣学校等

観察会、勉強会の実施

市民フェスティバル等への参加出展

写真展等による認知の拡大

清掃活動などの啓蒙活動

会報の発行等による情報共有

生物調査、記録の保存

意見の汲み上げ



行政への提言

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

社団法人 大阪自然環境保全協会

財団法人 日本野鳥の会 大阪支部

東大阪野鳥の会

枚岡ネイチャークラブ等

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

- ・ 原風景の伝承
- ・ 地域に根付いている生態系の持続
- ・ ヨシ原や湿地の復元による水質浄化効果、C O 2 対策
- ・ 環境教育、情操教育の場
- ・ 郷土愛の育成
- ・ 地域コミュニティーの確立

⑦ その他・特記事項

工事未着工の原野や周辺の田園は、多くの猛禽類や水鳥たちの生息地となり、自然環境の指標でもあるツバメのねぐらも形成されている。

整備について、一部、要望が取り入れられた点もありながら、残念ながら市民に開放された部分は、モラルのない使い方や占有も見受けられ、貴重な野生生物の生存は危機的状態である。

条例の制定など、貴重な野生生物の生存の場としての根本的な位置づけが、必要と考えられる。